

信心をえたら人間が変わるか
信楽峻唐

安楽寺寺報

聞光

第51号
第51号
2009/5/21

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL0823-21-7561

ある地方の若い真宗僧侶の集まりで、真宗信心を身にえたら、人間が変わるか、変わらないか、というところが議論になって、色々話し合ったところ、変わるといった僧侶が少数で、そのほとんどは変わらないと主張して終わったという話を聞きました。老僧の集まりの話なら、そういうこともあるかと思いますが、若い真宗僧侶の議論と聞いて、私は大きなショックを覚えました。そういう考え方の若い僧侶達が、これからの真宗教団の将来を担い、真宗僧侶を指導していくとすれば、いったい親鸞さまの教えの何を伝えていくつもりでありましょうか。私はこの話を聞きながら、教団の行く末を考



念仏を信するは、すなはちすでに智慧を得て仏に成るべき身となるは、これを愚痴をはなるることとするべきなり。
「弥陀如来名号徳」

えて、暗澹たる思いに沈まざるをえませんでした。親鸞さまは、真宗念仏を学んで、まことの信心を生きていくものには「仏に成るべき身に成る」と教えられています。そして信心に生きるもには、それなりの「しるし」があるといわれます。この「しるし」とは兆候、証拠ということ、信心の念仏を信するは、すなはちすでに智慧を得て仏に成るべき身となるは、これを愚痴をはなるることとするべきなり。

ある人の生き方には、それなりの具体的な姿があらわれてくるということとあります。信心をうるならば、人格変容が生まれてくるということとあります。かつて近代のはじめに日本の女子教育の重要性を自覚して、色々活動され、今日の京都女子大学を創設された甲斐和里子さんは、深い真宗信心を生きた方でもあって、その法味の随想の中で、

「私は年をとって外面はいよいよ不細工になっていくけれども、内面の心根の方は、老いるにしたがって、少しずつマシになってゆくとように思われます。そういう人は苦笑されるかも知れませんが、何といわれても、私は若いときより年をとった今が、少しマシになったように感じられます。人間が少しずつでもマシになるといふことは、ただことではありませんが、これもひとえにお念仏のはたらきです。」

「私には年をとって外面はいよいよ不細工になっていくけれども、内面の心根の方は、老いるにしたがって、少しずつマシになってゆくとように思われます。そういう人は苦笑されるかも知れませんが、何といわれても、私は若いときより年をとった今が、少しマシになったように感じられます。人間が少しずつでもマシになるといふことは、ただことではありませんが、これもひとえにお念仏のはたらきです。」

真宗の教えを聞くようになり、念仏申す日々が過ぎていくようになって、人間が少しずつマシになっていくということとあります。申すのは、僧侶としての私にとって、まことに天に向かって「ツバ」を吐くようなもので、成ってはいない自分の姿を思うかぎり、とても偉そうにいえたいものではありません。しかしながら、これが親鸞さまの教えられた真宗の仏道です。私たちの日々の人生生活は、まことに複雑な人間関係のただ中で成り立っているわけで、色々とお粗末な心が生まれてまいります。念仏を申して生きていくかぎり、そういう自分の姿を、厳しく振り返り、振り返りながら、心して生きていきたいものがあります。そしてこの先達の「すこしずつマシになる」という言葉は、私にとっては、とても厳しい教言であり、これからは、また、この言葉を大切にしながら、心して歩いていきたいと思うこととあります。

(二〇〇九・五・一三)

安楽寺マンガ通信

信楽めぐみ作



門徒総会開催

安楽寺友の会での発案により、4月19日、呉森沢ホテルで安楽寺門徒総会を開催いたしました。初の試みでしたが、54名のご門徒の皆様にお集まりいただき、法話と懇親会とくじ引きで楽しい一時を過ごしました。参加者の中から「こんな会なら年に数回あってもいい」という声も上がっており、また企画できればと思います。

いつもお勤めの最後に回向句をお勤めしますが、その最後に「往生安楽国」とお勤めします。安楽国とは浄土をあらわした言葉であり、不安と恐れと苦しみのない世界をあらわしたものです。そのような安楽寺をめざしながら、みんながその不安と恐れと苦しみのない場を作っていくような活動ができればと思います。今回は第1回目で、まずは知り合うことから始めていきたいということから、皆様にご案内をさせていただきました。今回ご都合でご出席できなかった皆様には、是非、次回、お合のせご参加下さい。



安楽寺法座案内

六月	永代経法要	日時 6月 4日(木) 昼席から 6月 5日(金) 昼席まで
	婦人会法要	講師 三原 光徳寺 藤田 徹文 先生
七月	お盆合同法要	日時 7月2日(木) 朝席・昼席
		講師 大竹 願徳寺 日域 学 先生
八月	お盆合同法要	日時 8月 13日(木) 10:00 8月 14日(金) 10:00
		講師 信楽峻唐 前住職

聞見

進化論 信楽晃仁

私は、新聞の中でとても楽しみにしている欄があります。なんと書いても五木寛之さんが書いてくださる「親鸞」が一番です。短すぎるほどに感じますが、これがちょうどいい長さなのでしょう。次の日の新聞が待ち遠しい毎日です。そしてもう一つ楽しみにしている欄があります。それは中国新聞の日曜日に掲載される「おしやへりサンデー」です。これは日常の中で起こった、ほほ笑ましい出来事が投稿され、読むもの的心をなごませると共に、子どもの素直な視線は私たちに大切なものを教えてくれるように思います。

今日は二つほど紹介します。『ポストさんお願い』三月八日 『懸賞クイズなどによく応募する。ハガキを出すときはポストに手を合わせてお願いする。それを見て育った保育園児の息子は、どんなハガキや封書を出すときも拝むようにになった。かわいいけれど、人

が見ているときはちよつと恥ずかしい」(佐伯区・でもやっばりかわいい・三七歳)

親が拝むものを子どもは拝むんですね。私たちは何を拝む姿を子どもに見せてきたんでしょうか。金を拝み、名誉を拝み。権力を拝み、われを拝む。それが幸せ、それが子どもの将来の幸せと、疑いもなく仏とは対極にあるものを拝んできたのではないのでしょうか。私が拝んだものを子どもも拝むようになりませんか。背筋が凍る思いがします。

『進化』って何』二月十五日

「小学三年の娘は、猿が進化して人間になった」ということは知っている。でも、意味はよくわかっていない。先日テレビで猿を見て「この猿もいつか人間になるん？」と不思議そうな表情で見ている」(福山市・どう答えればいいの・三八歳)

今年進化論となえたダーウィンの生誕二〇〇年の年だそうですね。一八〇九



しかしこの女の子を笑うことはできません。私たちが仏になるという同じことと同じではないでしょうか。「死んだら仏になる」という人がいます。確かにお釈迦様は人間から仏になられました。進化

年二月一二日にイングラントでダーウィンは生まれ、その五〇年後に『種の起源』を発表し、広く進化論をとらえたそうですね。この誕生日を中心に世界各地で生誕二〇〇年の記念行事が開催されました。

この小学三年生の女の子も、今年になって学校でダーウィンの進化論の話を聞いたのかも知れません。そこでこの女の子は猿が進化して人間になったという話を聞いて、猿が育てば人間になると思ったのではないかと思います。

投稿したお母さんが「娘は猿が進化して人間になった」ということは知っているが、意味はよくわかっていない。」といわれるとお母さん、進化の意味がわかっていない。

したのです。そして万人が進化する道をお説きくださいました。でもその進化を遂げるには、その道を歩まなければ、進化はしません。また進化はいっぺんに変わるものでもありません。少しずつ少しずつ進化して、この猿から人間へと進化したので。ならば猿はみんな人間になるかといえ、猿は猿でいます。長い長い年月をかけ進化の道を歩んだものが人間になったのです。進化するものと、進化しないものがあります。今までの生活を改め、よりよい生活を求めたものが人間になったのです。同じ生活をし、同じ人生を送って変わるはずがありません。死んで地獄でいいと納得しているのならそれは自由です。しかしもし、地獄はいやだと。浄土がいい、亡者よりも仏がいいというのなら、その進化の過程を経ることが必要です。

人間が仏に成る進化の過程は念仏申し、その念仏によってこの私の中が少しずつ少しずつ変わっていくこととです。その道を共に歩みたいものだと思えます。

安楽寺生活聖典(略本)完成

平成一八年の住職継承法要に安楽寺生活聖典を発行しましたが、皆様からもう少し薄くならないか、もう少し軽くならないかという声が上がっていました。誤植もあり、いつか改訂版をだしたいと思っていました。あつと三年が過ぎてしまいました。この度誤植を訂正し、そして新たに必要なるものを取捨選択した、新しい聖典が完成しました。お経をわかりやすくするために意訳をつけ、聖徳太子の『憲法十七条』(抜粋)や仏教をあらわす法語を加えて、少しでもみ教えがわかりやすい御経本をめざしました。安楽寺の種々の法要、研修、そしてお葬式まで、お勤めのお経はこれ一冊にすべて入っております。どうぞお求めいただき、日々の研鑽(けんさん)活用下さい。(価格七百円)

仏事の心

「先祖はもうあの世へ帰った？」

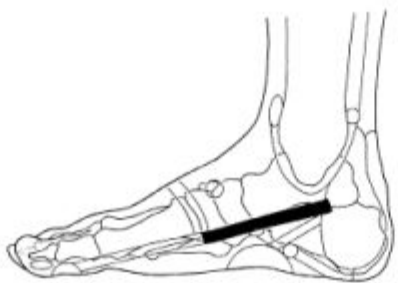
毎年、八月のお盆時期は、全国各地で「お盆参り」が始まり、住職は忙しい毎日を送ることになります。私の学生の時の経験では特に北九州が十三日から十五日にお参りして欲しいという門徒さんが多く、この三日間がピークで、一日に一人の僧侶が五十軒も回らなければなりません。

五日の間にほとんどのお宅に参らないとならないのだそうです。お盆と言えば、いわゆる「先祖供養」と考えられています。しかも「特定の先祖のために」。供養するもののように思いがちです。しかし、特定の先祖を追慕するにしても、そのお心を仰げば仰ぐほど、数限りないご先祖によってこの私のいのちが恵まれたことを慶び、仏法を依り所に力強い人生を歩むことの大切さを思い知らされます。



足医術入門 第4回 腰痛の治し方

今回は腰痛の治し方です。右の腰が痛ければ、右足。左の腰が痛ければ、左足。図の足診区に



棒をあて、強くぐさぐさいれ、腰の効果が体感されます。是非、お試下さい。

安楽寺納骨堂・合同墓完成間近

先般、安楽寺納骨堂・合同墓の完成間近です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。

先般、安楽寺納骨堂・合同墓の完成間近です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。

先般、安楽寺納骨堂・合同墓の完成間近です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。納骨堂は7月15日、合同墓は8月15日、それぞれ完成予定です。